

第 80 回 東葛しぜん観察会

5 月の長田谷津で小さな感動を共有しませんか？

蒨 正雄（松戸市）

日 時：2012 年 5 月 6 日（日）9 時 30 分～12 時 天気：晴

場 所：大町自然公園（市川市）

参加者：一般 22 名 指導員 16 名

担当指導員：蒨 正雄、池田稔夫、岩根悦子

市川市「大町自然公園」の中心部は古くから長い田んぼの「長田谷津」と呼ばれ、都市部に近い割には豊かな生態系が残され、市川市が誇る貴重な場所です。長田谷津の自然が保てる要因は、下総台地の西端で、台地上の梨栽培農家の土壤に数十年分の雨水が浸透していること。そして、自然公園開設時のコンセプト「何もないことの貴重さを知る」「長田谷津に生きるべき生き物が生きられる環境保持」を順守してきた関係者の努力が挙げられます。長田谷津は直近の大雨或いは日照りでも常に水位が安定しており、水温も年間 12 度前後と大きく変化しません。このことが生き物に安定的な環境となり、豊かな生態系をもたらしています。公園開設から 40 年を経て、コンセプトを守るための施策、子どもたちが本物の自然体験ができる数少ない場所として、新たな役割など、私たちが次世代に引き継ぐ取り組みを一般参加者と共に学ぶ観察会を開催しました。

上空に寒気が入り落雷が気になりな気象状況を横目に、ゴールデンウィーク最後の休日を自然観察で過ごそうと、総勢 38 名は 3 班に分かれ、石橋の上を一列で歩きました。歩行時間一時間半程度の歩き通しですが、この季節はこれでもかと自然が迫り、語っても語りつくせず、参加者はもちろん五月の担当指導員は濃い緑を十分楽しむことができました。

都市部にこれほど素晴らしい自然公園があったとは驚いた。公園開設時のコンセプトを守る行政、近隣地権者、そして汗を流すボランティアの方々によって長田谷津が維持されていることに感慨を新たにされる方もおりました。市川市の郊外で交通の便が悪く、メジャーで無い長田谷津を都市部に唯一残された貴重な財産として次世代に引き継ぐには、私たち自然観察指導員が担える役割があると思います。参加者から感想を伺った時「長田谷津のボランティア活動に参加したい」とお声があり、開催テーマ「五月の長田谷津で小さな感動を共有することができた」と実感しました。

